

科目名	社会福祉学	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Social Welfare	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	ふじもと つよし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	藤 本 剛	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	社会福祉の基礎を理解し、低所得者、児童家庭、障がい者、高齢者の福祉の現状と課題を考えます。				
到達目標	最新の社会福祉政策の流れを理解し、今後の福祉の在り方について自ら進んで考え、自分の生き方の中に活かしていくことを目標とします。				
授業概要	少子高齢化が進展し、社会が大きく変化していく中で、社会福祉の在り様も大きな変化に見舞われています。この授業では、社会福祉の基礎的な知識や考え方を学びながら、時代と共に変化する社会福祉の現状、課題、政策などについて私たちの生活との関わるの中で捉え、共に考えていきたいと思っています。また、福祉サービスを支える経済的基盤、人的資源についても触れていく予定です。				
授業計画					
第1回	社会福祉の考え方と社会福祉援助技術について概観し、社会福祉の基礎となる考え方を理解します。				
第2回	社会福祉を取り巻く環境や、これまでの歩みについて理解を深めます。				
第3回	社会福祉の仕組みについて、法律・行政・財政などを概観します。				
第4回	社会福祉サービスの仕組みと機関・施設・担い手について理解します。				
第5回	低所得者福祉① 生活保護の基本となる考え方や仕組みについて理解します。				
第6回	低所得者福祉② 生活保護の現状と課題について考え、その他の低所得者福祉について学びます。				
第7回	児童家庭福祉① 児童福祉の理念を理解し、関係する法律や制度について学びます。				
第8回	児童家庭福祉② 関係する様々な施設について、その種類や目的、概要、課題などを学びます。				
第9回	児童家庭福祉③ 子ども虐待について、現状、対策、課題などを学び、理解を深めます。				
第10回	障がい者福祉① 「障がい」についてどう捉えるか、国際的な取り組みや基本理念について学びます。				
第11回	障がい者福祉② 障がい者福祉の法律・制度を概観し、理解を深めます。				
第12回	障がい者福祉③ 障がい者福祉の現状と課題について考えます。				
第13回	高齢者福祉① 高齢者福祉の法律・制度・施設について概観し、理解を深めます。				
第14回	高齢者福祉② 高齢者福祉の現状と課題について、その取り組みを考察します。				
第15回	高齢者福祉③ 少子高齢社会の在り方について、共に考えます。				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	新聞などに載る貧困問題や障がい者、高齢者に対する福祉、子どもたちをめぐる課題などの記事に目を通し、記事で取り上げられている内容の理解に努めてください。授業の予習、復習も併せて1.5時間程度の学習を希望します。ネットを利用するのも一つの方法です。授業で取り上げたキーワードを確実に覚えるようにしてください。				
履修条件 受講のルール	特にありませんが、欠席した授業の内容は、配付プリントや受講した学生からの情報などでカバーするようにしてください。質問や意見などは出席カードに記入してください。				
テキスト	特に用いません。				
参考文献・資料	石田慎二/山縣文治編著『社会福祉・第5版』ミネルヴァ書房、 『厚生労働白書』各年版 厚生労働省「厚生指針」増刊『国民の福祉と介護の動向』各年版 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	試験（60%）、レポート、ビデオの感想・意見等（30%）、受講態度（10%） ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験				

	を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 木曜日の16時30分～17時30分
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。関心を持って積極的に予習・復習や情報収集を行ってください。